令和４年度　学校自己評価・関係者評価

加古川市立志方西小学校

令和４年度に取り組んできたことに対する学校評価を公表いたします。本年度当初に示した重点目標や、その具体的な方策に対して、教職員や保護者の皆様からのアンケート結果をもとにし、学校が４段階で自己評価をし、次年度に向けた改善方策を策定しています。これをもとにし、学校運営協議会の皆様に、学校の取り組みを学校関係者評価としてしていただきました。以下はその内容を取りまとめたものです。

学校教育目標

「豊かな心を持ち、自ら学び、ともに生きる子の育成」
めざす児童像：よく考える子　・素直で優しい子　・元気で明るい子
めざす学校像：子どもと職員の幸福感があふれる学校（成長が実感できる「たのしい学校」・働き甲斐のある学校）

Ⅰ教育活動に関するもの

A：十分到達している　B：到達している　C：やや到達不足である　D：できていない

本年度重点指導事項		本年度の具体的な方策	教職員アンケート結果	保護者アンケート結果	学校自己評価	次年度に向けた改善の方策	学校関係者評価
魅力ある授業の創造	主体的な学びの姿勢	わかりやすく楽しい授業を工夫するとともに、主体的に学ぶ意欲や態度を育てる。	A	A	B	○外部団体や専門機関との連携協力による出前授業等を積極的に活用し、児童にとって魅力的でより専門性の高い授業づくりに努める。【継続】 ○「学習の手引き」を活用した、家庭と連携した基本的な学習習慣の確立。【継続】 ○一人一台端末や電子黒板、デジタル教科書等を積極的に活用した授業を公開する。【継続】 ○全教科において、「目標」（1時間のめあて）・「指導」（めあてを達成するための手立て）と「評価」（児童がどこまでめあてにせまり、達成できたかの見取り）の一体化を意識した授業づくりを目指す。【新規】 ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指して、一人一台端末を有効活用した授業づくりを目指す。【新規】	○教職員からの「児童がお互いに勉強を教え合う取組があってよい」との意見に賛同する。 ○コロナ禍の中で、教職員の試行錯誤と努力の結果を何一つ無駄にせず、次の指導に生かされてきた。それが、年々、授業の成果、向上につながっている。 ○全教科において、「目標」、「指導」、「評価」の一体化を意識した授業づくりを目指すことは、教育効果の向上につながる。 ○「協同的探究学習」、「ICT」、「兵庫型学習システム」については、その内容を、さらにわかりやすく保護者に伝える必要がある。
	基礎・基本的な内容の確実な定着	朝の学習タイムの活用や指導方法を工夫し、きめ細かな指導を通して基礎・基本の定着を図る。	A	A			
	「わかる学力」の育成	協同的探究学習を通して、自分の思いを表現し、相手に伝え、考える力の育成を図る。	A	B			
	ＩＣＴの活用	ＩＣＴを活用した授業づくりに取り組む。	B	B			
	兵庫型学習システムの運用	兵庫型学習システムの専科授業により、教育効果の向上を図る。	A	B			
心の教育の充実	道徳性の育成	認め合い支え合う心情を育て、思いやりのある子どもを育てる。	A	A	A	○他者や自己との「対話」により、「生き方」を問う道徳科の授業づくりを目指す。共に考え、悩み、夢や希望を共有する姿勢で、子どもの心に響く道徳科の授業を行い、道徳的な実践力を高める。【新規】 ○いじめ防止に繋がる道徳教材を、学級づくりの時期（4～5月）やいじめ防止啓発月間（9月）に合わせて全学年で実施し、いじめを許さない強い心とともに相手を思いやる温かい心を育む。【継続】 ○アセスや心の相談アンケートを積極的に活用し、いじめの積極的認知及びいじめ見逃しゼロ、不登校の未然防止をめざす。【継続】 ○西っ子活動（縦割り活動）の充実を図るとともに、他小学校とリモート交流をする等、交流活動の更なる発展をめざす。【継続】 ○「ため池」ふるさと学習を通じて、地域でのふれあい活動の充実を図る。令和5年度以降も皿池のかいぼり体験の継続を図り、地域とともにある学校づくりをめざす。【継続】	○道徳の授業は、教える教職員の個性、児童のそれぞれの家庭環境も関係し、本当に難しい。そのような中、保護者による評価が高いことに安心する。 ○道徳的実践力の育成について、教職員より保護者の方が高い評価であることは理想的である。 ○保護者の方から児童数が少なすぎるとの意見が見られることは、悩ましい限りである。
	道徳的実践力の育成	道徳授業を中心に、児童の心に響く指導を行い、道徳的な実践力を高める。	B	A			
	交流活動の充実	縦割り集団での活動や、地域でのふれあい活動や３小学校での合同行事を通して、豊かな心の育成を図る。	A	A			
健康で安全な暮らしの推進	健康な身体づくりの推進	体育学習の工夫や外遊びの奨励、体育的行事の充実などにより、体力の向上を目指す。	A	A	A	○運動会等の体育的行事について、持続可能な学校行事とするために実施方法を工夫する。【継続】 ○専門機関と連携協力した取り組みを推進する。【継続】 ・薬物乱用防止教室 ・インターネットトラブル防止講座 ・交通安全教室（自転車の安全な乗り方講習も実施） ・1.17追悼集会への語りべ講師の招聘 ○危機管理マニュアルを活用した教職員の研修を実施し、学校安全の3領域（生活安全・交通安全・災害安全）について安全・防災意識を高める。【継続】 ○委員会・児童会活動等を活用し、学校生活における規範意識を子どもの内側から高める。そして、子ども自身が問題意識をもち、子どもが主体となって解決していけるように導く。【継続】	○健康な心身をつくる取組を通して、子どもたちの可能性を最大限に引き出してほしい。 ○明るい未来に向かって元気よく行動できる子どもへと成長してほしい。朝からしっかりごはんを食べて、元気に過ごしてほしい。 ○集団競技における個人指導の工夫は、難しい課題である。 ○参観では、発言している子どもの声が小ささが気になった。自信をもって表現できる子どもを育てていってほしい。
	健康・安全意識の確立や生活習慣の定着	保健指導や生活指導、食育を通して、健康や安全に対する意識を高め、基本的な生活習慣の定着を図る。	A	A			
	安全指導の充実と安全・防災意識の確立	避難訓練や安全指導を充実させ、安全・防災意識を高める。	A	A			
学校・家庭・地域との連携を深める	開かれた学校	授業参観やオープンスクール、各種便りやＨＰなどを通して、学校の取組を分かりやすく伝える。	A	A	A	○HPや学校だより、39メールや学年だよりを積極的に活用し、学校や児童の様子を保護者や地域の方々により分かりやすく情報発信していく。【継続】 ○保護者が教育相談を年間を通していつでも受けられるよう相談体制を整備し、児童と保護者に寄り添った姿勢で丁寧に対応する。【継続】 ○「まちづくりの拠点」として、今後も学校が地域と共にあり続けられるよう、地域の方々からの声を大切にし、このまちの未来を創造するカリキュラム開発に努める（総合的な学習の時間を中心に）。【継続】 ○「ため池」ふるさと学習を通じて、地域でのふれあい活動の充実を図り、子どもたちが生き生きと学び合う教育活動を計画する。【継続】 ○志方中学校区をあげて、挨拶運動を継続実施する。【継続】 ○志方中学校区ユニット推進部会、志方中学校区学校運営協議会における協議事項について、教職員間で共通理解し、全教職員が同じ方向でユニット内の連携に努める。【継続】	○教育は、学校にだけ任せておけばよいのではない。人間をつくる基本は家庭にある。大人の姿勢がそのまま子どもに伝わっていく。子どもの挨拶、優しさに大人の姿が表れている。 ○コロナ禍における制限があったにもかかわらず、様々な体験が保障できていることは素晴らしい。 ○評価アンケートの保護者記述で寄せられた課題点については、すぐに対応していくことが大切である。
	保護者との連携	教育相談日などを設け、保護者からの相談や要望に丁寧に対応する。	A	A			
	地域との連携	農業体験など、地域と連携した取組を十分に行う。	A	A			
	コミュニティスクール	コミュニティスクールのねらいを踏まえ、学校園連携ユニットの挨拶運動等志方中学校区をあげて連携の強化に努める。	A	B			
特別支援教育の推進		個別の指導計画に基づく指導の充実と、支援教育の啓発に努める。	A		A	○それぞれの子どもの実態を把握し、職員全体で情報を共有し、大勢の目で一人の子どもを見守る（みんなでみんなを）ということを今後も大切にする。【継続】 ○教職員自身がこのまちのよさを知るために、ふるさとの地理や歴史等を学ぶ研修の機会を持つ。地域学講座の継続実施。【継続】 ○縦割りの西っ子活動や児童会活動を通して、上級生の姿をロールモデルとして下級生にも示すことで、リーダーシップや思いやり、協働の心を育て、目標を持って行事に参加させる。【継続】 ○各学年の発達段階に応じた情報活用能力・情報モラルを計画的に身に付けさせ、積み上げていく。【継続】 ○異学年交流や地域の方々、高齢者の方とのふれあいが子どもたちにもたらすよい効果をこれからも大切にする。【継続】 ○福祉教育体験活動（アイマスク体験、車いす体験、手話体験、介護老人福祉施設との交流等）については、年間指導計画をもとに、他教科の内容と関連付け、教科横断的な視点で取り組んでいく。【新規】	○上級生の真面目で素直なところは下級生に受け継がれ、同じようにさらに下級生に優しくできる。それが繰り返されている。 ○子どもは大人を見て学ぶように、上級生のお兄さん、お姉さんを見て学びながら大きくなっていく。それが志方西小学校の伝統、文化であると思うとうれしく思う。 ○高学年の優しいお手本があれば、人に優しく、心豊かに学校生活を送ることができる。
総合的な学習の推進		地域での活動を積極的に進めながらカリキュラムへの位置づけを図り、探求する学習の充実を図る。	A				
特別活動の推進		いきいきと活動できる学級経営を基盤にすえて、委員会や児童会活動の活性化を図る。	A				
情報教育の推進		情報活用能力、情報モラル等の育成に努める。	A				
福祉教育の推進		異学年交流や地域との交流を通して人を思いやる心を育てる。	B				

Ⅱ運営に関するもの

職員間の共通理解		学校教育目標の実現にむけ、共通理解や意志の疎通を十分図る。	A		A	○小規模校のメリットを生かして、教職員間で素早い情報共有を行い、チームとして的確かつ真摯に対応する。【継続】 ○学校行事等の終了後の振り返りを大切にするとともに、改善できることは即実行にうつすことを心がける。また改善策が必ず実行ある取組となっていくよう、その進捗状況を定期的に確認していく（進捗管理の徹底）。【継続】 ○授業研究を通して授業の技術を磨くとともに、ベテラン教師が核となり、計画的に校内研究を進めるとともに、職員間の同僚性を高め、質の高い教育の実現を目指す。【継続】 ○教職員にとって「働くこと」が「健康」「幸せ」につながるよう、明るく働きやすい職場をめざす。【継続】	○少人数校ならではかもしれないが、教職員の目の行き届いた指導と見守り、全児童を全職員で見守る体制が本当に素晴らしい。 ○担任としての仕事だけでも手一杯と思われるのに、「学び愛ウィーク（教師が互いに授業を見合う）」の取組をしていることに驚かされた。教職員同士で批評し合い、相互の良い所を取り入れ、工夫と改善を繰り返すことで、教職員の質の向上、児童の学習意欲の向上につながり、教職員の自身が児童や保護者との信頼にもつながっていく。 ○家庭科室のエアコンの未設置について、学校現場外の問題と認識しつつ、教職員が児童を思う正当な意見として尊重したい。
運営の活性化		ＰＤＣＡサイクルを活かした運営を行い、教育活動を活性化する。	A				
教職員の資質向上		授業研究や研修を計画的に行い、指導力の向上に努める。	A				
施設・設備の維持管理		各教室や特別教室など、教育環境を整え整備する。	A				

（Ａ：９０％以上　　Ｂ：７０％以上　　Ｃ：５０％以上　　Ｄ：４９％以下）　【継続】継続実施　【新規】R5年度から新たに実施